

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 林業課長 桑本幸夫 電話番号 0852-22-5167

事務事業の名称	県民参加による森づくり事業	
目的	(1) 対象	県民
	(2) 意図	森づくりの活動等に積極的に参加してもらい、森林・林業への理解を深めてもらう。
事業概要	① 「森林の整備・保全は社会全体で支える」という県民意識を醸成し、県民自らが森林の整備・保全活動へ直接参加できるよう、その機会を提供する。 ② 森林とふれあうことを通じて、森林に対する県民理解を促進するため、ふるさとの森において森林とふれあう機会を提供する。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	県民協働の森づくり活動年間参加者数	目標値	69,700	70,400	
			実績値	56,845	59,349	60,439	60,299	
			達成率	81.54	84.39	85.13	83.75	%
	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値	0.00	0.00			
			実績値	0.00	0.00			
			達成率	0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	39,020	42,287
うち一般財源(千円)	38,894	41,754

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

森づくり活動等への県民参加者数は、年度毎にばらつきはあるものの、毎年、目標に対して約1万人少ない状況となっている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

県としても県民自らが森林の整備・保全活動へ直接参加できるような機会や森林とふれあう機会の提供ができており、「森林の整備・保全は社会全体で支える」という県民意識の醸成や森林に対する県民理解の促進に繋がっている。その結果、毎年一定以上の県民参加者数の実績があがっている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
森づくり活動への県民参加者数を更に増加していく必要がある。
- ②困っている状況が発生している「原因」
アンケートにおいて「森づくりボランティアに参加したいと思っているが、参加したことが無い」との回答があるように、意識が行動にまで結びついていないことが少なくない。一方、緑の少年団については、少子化や学校の統廃合により団員が減少している。
- ③原因を解消するための「課題」
意識を行動に移すためのきっかけづくりがポイントである。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

森づくり事業への更なる県民参加を促進するためには、現在の参加者による継続的な活動に加えて、潜在的な意識をもっている方々へのきっかけづくりが重要であるため、引き続き県民参加の森づくりの機会を創出するとともに、しまね森林活動サポートセンターの活用（森づくりサポーターの更なる活用）などにより更なる参加機会を創出していく。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）